

新築戸建住宅における家庭用燃料電池「エネファーム」 お客様とともに世界最多の累積搭載棟数 5万棟を達成

積水ハウス株式会社は、自社が建設する新築戸建住宅において、家庭用燃料電池「エネファーム」の搭載棟数が50,412棟（2018年8月末）に達しました。

これは、日本全体の累積普及台数25万台*¹のうち5分の1を占め、世界最多の搭載棟数となります。

- 新築戸建住宅における「エネファーム」累積搭載棟数 世界最多の50,412棟を達成
- 積水ハウスの新築戸建の居住時年間CO₂排出量83.6%*²削減にも大きく貢献



家庭用燃料電池「エネファーム」の設置例

日本は「パリ協定」において「2030年までに温室効果ガス排出量26%削減（2013年度比）」を公約しています。中でも家庭部門には39.3%削減という高い目標を課しており、この達成に向けて住宅の「創エネ・省エネ」は一層の推進が必要です。

当社は家庭部門でのCO₂削減に貢献できる「エネファーム」に早くから注目し、開発段階から機器メーカーやガス会社と実証実験に参加してノウハウを蓄積。2009年の「エネファーム」市販開始と同時に環境配慮型住宅「グリーンファースト」を販売開始し、2013年からはエネルギー収支ゼロを目指すZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）「グリーンファーストゼロ」の販売を通じて「エネファーム」を積極提案してきました。この結果、当社新築戸建住宅の約半数に「エネファーム」を採用いただいております。当社の新築戸建住宅のCO₂排出量83.6%*²削減にも大きく貢献しています。

積水ハウスは、今後も環境大臣認定「エコ・ファースト企業」として、新築戸建にとどまらず、分譲マンションや既存住宅のリフォームでも「エネファーム」の積極採用を推進し、家庭部門でのCO₂排出量削減を進めて参ります。

*1：エネファーム普及推進協議体「エネファームパートナーズ」リリースより
*2：1990年代の1棟あたりの平均的なCO₂排出量と比較した場合（2017年度実績）

